

弁理士ジョージの相談室 Q & A

先生、我が社がお菓子の新製品を出すことになりました。商品名を商標登録したいので、手続きをお願いできますか？

わかりました。で、どんな商品名ですか？

「豆乳クッキー」です。その名のとおり豆乳を使ったクッキーで、コクのある味わいが特徴です。ヘルシーなイメージですが、味もちゃんと美味しいというのがポイントですね。

うーん、なるほど。「豆乳クッキー」だと、お菓子の商品分野では商標登録できない可能性が高いと思いますね。

えっ! どうしてですか?!

商品の品質や原材料を普通に用いられる方法で表示する標章のみからなる商標は、登録を受けることができないからです。

それはどういうことですか？

「豆乳クッキー」という言葉は、豆乳入りのクッキーと理解されますから、商品「クッキー」の品質や原材料を表示するものと判断されてしまうのです。

そうなんですか…

ただ、図形要素を組み合わせたり、特徴ある言葉を付加すると登録できる場合がありますので、ご検討されてはいかがでしょうか。

先生、ありがとうございます。社内で検討してまたご連絡しますね。

なすびくんの仕事

坂間和之(作) 飯岡菜子(画)

弁理士認知度向上プロジェクト オリジナルキャラクター「発明王ニバンセンジ」新動画シリーズを制作

日本弁理士会は、「弁理士認知度向上プロジェクト」の一環として、今年度もオリジナルキャラクター「発明王ニバンセンジ」動画シリーズを制作し公開しました。弁理士や知財について動画で分かりやすく説明しています。ぜひご覧ください。

「発明王ニバンセンジ」特設サイト

特許庁からのお知らせ

特許庁公式メルマガ & Twitterをご紹介します!

JAPAN PATENT OFFICE

特許庁公式
メルマガ × Twitter

- 特許庁ではメールマガジンを毎月2回配信! 知財のイベント情報などをお届けしています。
- 日英の公式Twitter アカウントでは、特許庁HPの更新情報と、特許庁に関連するニーズの高い情報を発信中!

メルマガ登録・Twitterフォローをお願いします!

▼メルマガのご案内 ▼日本語公式Twitter ▼英語公式Twitter

JPAA Information

JPAA知財サポートデスク

中小企業・スタートアップ支援に携わる皆さまへ

「JPAA 知財サポートデスク」
を通じて知的財産に関わる
様々なニーズにお応えします!

お気軽にご連絡ください!

- 中小企業・スタートアップ支援に携わる皆さまからの、知的財産、弁理士に対するご要望やご相談を一元的に受け付けます。ご要望やご相談に応じて、弁理士による相談対応や訪問支援等を行い、皆さまとともに中小企業の成長を目指します。詳細は、以下の特設サイトよりご確認ください。

JPAA 知財サポートデスク特設サイト
[URL] <https://www.jpaa.or.jp/smallbusiness/jpaaisupportdesk/>

▼詳しくはこちらへ

PATENT Attorney

パテント・アトニー

VOL.104
2021
日本弁理士会広報誌
冬号

「PATENT ATTORNEY」は「弁理士」のことです。



【ヒット商品はこうして生まれた!】

ヒット商品を支えた知的財産権

身体機能を改善する装着型サイボーグ

「HAL(Hybrid Assistive Limb)」

- シリーズ特産品(川連漆器)
- 知っておきたい! この技術
トレンドでつく「ゼロトラストセキュリティ」
- 知財miniトリビア
- 弁理士ジョージの相談室
- 漫画「なすびくんの仕事」
- 特許庁からのお知らせ
- JPAA Information





HAL (Hybrid Assistive Limb)

[特許] 第4178186号 ほか
[意匠登録] 第1505128号 ほか
[商標登録] 第5178998号、第5164351号 ほか

身体機能を改善する 装着型サイボーグ

「HAL (Hybrid Assistive Limb)」は、CYBERDYNE株式会社が開発した世界初の装着型サイボーグである。同社は筑波大学教授の山海嘉之さんが創業した大学発のベンチャー企業だ。山海さんは、人・AIロボット・情報系を融合複合する新たな学術分野として「サイバニクス」を創生し構築してきた。そこから生まれた装着型サイボーグ「HAL」は、テクノロジーと人が一体化して身体を動かす装置だ。

人が身体を動かそうとした時に脳から脊髄、運動ニューロンを経て筋肉に神経信号が伝わり、筋肉が動く。この時、皮膚表面に現れる微弱な生体電位信号をセンサーでキャッチして関節を動かす。この生体電位信号は、どのように身体を動かすかという意思によって生じた信号であり、重要なのは、この意思に応じた動作が実現された際に、脳にフィードバックされる感覚神経の信号と同期している点にある。HALは、この動作の実現と、感覚情報のフィードバックからなる独特な機能改善ループを無理なく楽に繰り返すことで、脳と神経、筋肉の間の神経伝達を行うシナプスの結合を再構築、調整する。これにより、脳神経・筋系の機能改善が促進され、筋萎縮性側索硬化症(ALS)など進行性の難病患者の歩行機能の改善が促進される。従来治療法がないとされた進行性の神経・筋難病であっても、3.5年間の市販後調査の結果、患者の身体状態は治療開始時のベースラインを上回っているという素晴らしい治療効果が示されている。

装着するだけで人をサイボーグ化するHALに代表されるサイバニクス技術に関する構想は、1987年頃から始まり、91年には基本原理を創り出し、その後、原理検証、試作、実験を繰り返して99年ごろに実験室の外にも移動可能な実験機体が試作できた。そして、基

礎研究の成果を事業化・社会実装を通して相互フィードバックにより新領域・新産業創出のための好循環のスパイラルを実現するため、2004年に、CYBERDYNE株式会社が創業。14年には東京証券取引所への上場を果たした。「研究の成果を社会で実装化しなければ、研究は止まってしまいます」という山海さん。未開の領域での産業創出に挑戦する開拓型の企業がなかったことから、自らベンチャー企業を立ち上げた。

装着型サイボーグHALは前例のない技術の集合体であり、目指す機能を実現するため、センサー系、駆動系、機構系、制御系、AI処理系など多種多様な独自開発を行う試行錯誤が続いた。社会に存在しない革新技術の場合、国際規格や社会ルールなどが準備されていないことが多い。そこで、山海さんは国際標準化機構(ISO)のエキスパートメンバーとして、HALのような治療ロボットなどの国際規格策定を牽引した。HALは2013年にEU域内で医療機器の認可を取得。日本国内では16年に、治験を経て新医療機器として神経・筋難病疾患の治療で公的医療保険が適用された。また17年12月にアメリカ食品医薬品局(FDA)に医療機器として登録されたことは、「国際的な展開を促進する上で大きな一歩になった」と山海さんは言う。20年12月に脳卒中の後遺症への適用拡大に向けた治験が終

り、現在承認申請の準備を進めている。最近では、日米欧に加え、東南アジアや中東などへの展開を活発化させ、医療用のHAL以外にも、介護、災害復興、農業、建設などの分野で腰痛を防ぎ腰部負荷を大きく低減するための作業支援用のHAL腰タイプや、フレイル等で身体機能が低下した高齢者の機能改善のための自立支援用のHAL腰タイプなどを市場投入することで、国内外での事業展開を推進している。更に、これらHALシリーズに加え、動脈硬化度や心機能などの生理情報を捉える小型バイタルセンサ、人工知能搭載型の除菌・清掃ロボットなどのCYBERDYNE社の全ての製品は、サイバーダイナミクスシステムで繋がっており、集積されたビッグデータのAI解析・処理を通して、サイバニクス空間(「人」+「サイバー・フィジカル空間」)を扱う次世代システムとして運用される。

HALに関する技術・発明は、開発当初から特許をはじめとする知財を取得してきた。HALの特許は、制御も含めた装置の考え方そのものの新規性が認められており、HALの類似品は出ていないという。「国際戦略の中で知財戦略を考えていくのが重要」とする山海さんは、知財で守られた技術によって、自ら提唱するテクノピアサポート(人とテクノロジーが相互に支え合う)社会を実現する歩みを着実に進めている。



Prof. Sankai University of Tsukuba / CYBERDYNE Inc.
サイバニクス治療の様子(ドイツ ポーフム)

シリーズ JAPAN 特産品

川連漆器

商標登録：第5141290号



半径2キロのおわんの国、秋田、川連(かわつら)。川連漆器は、秋田県南部に位置する湯沢市川連町を中心として生産され、中心は椀類、普段使いの漆器として親しまれている。近年は、小物

は箸から大物は家具まで幅広いアイテムへの展開を図っている。

川連漆器は、800年以上前、武具の漆塗りから始まり、お椀の生産が産業化されたのが江戸時代後期といわれている。国産の木地を挽き、煙で燻す昔ながらの乾燥方法でお椀をつくり続ける川連漆器。煙を浴びながら木地が低温でゆっくり乾燥することで、木材の割れの原因となる狂いや歪みを軽減している。繰り返し漆を塗っては研ぐ、代表的な技法「花塗」。自然のままの線と光沢を尊重する塗り立ての技法によって、豊かな曲線と漆の持つやさしくふっくらとした質感が生まれる。

1996年に県の伝統的工芸品に指定され、1998



年及び2000年の全国漆器展では内閣総理大臣賞を受賞。2009年に「川連漆器」の拠点施設、湯沢市川連漆器伝統工芸館がオープン。約800点が並ぶ展示販売フロア。2階には川連漆器資料館があり、いにしえから現在までの職人の技を十分に味わうことができる。

堅牢さを誇る実用的な器として庶民生活に密着し、地域の主要産業となる。産地のこれからの未来を考え、川連漆器の定義と理念を語り合ったことから産地の指針が生まれ、認知度向上のため産地マークを制定し(右下:商標登録第6024850号)、これからの100年へ向け、新たな歩みを始めている。



このコーナーに掲載御希望の方は、「特産品」のプロフィール・連絡先を右記までお送りください。 Fax 03-3519-2706 Mail panf@jpaa.or.jp

知っておきたい!この技術 トレンドてっく ゼロトラストセキュリティ

シリーズ
45

イスからのアクセスが増えるなど、境界が曖昧になったことから「あらゆるアクセスを信用しない」ことを前提とするゼロトラストセキュリティが注目されている。

ゼロトラストセキュリティは複数のソリューションを組み合わせる。ユーザーのIDとアクセス情報を管理し、認証、アクセス権限の許可などを IAM (Identity and Access Management)、端末をマルウェアなどの脅威から守る EPP (Endpoint Protection Platform)、端末が攻撃された際に対処する EDR (Endpoint Detection and Response) などのほか、クラウドサー

の利用状況の可視化や制御、アクセスに利用されるモバイル端末の監視や制御といったソリューションも活用される。



知財 mini トリビア

第4回 なかなか増えない「色のみ」「音のみ」の登録商標

商標法で認められる商標は、長らく、文字、図形、記号、およびこれらの組み合わせに限られていましたが、1996年の法改正で「立体商標」が、さらに2014年の法改正で「動き商標」「ホログラム商標」「色彩のみからなる商標」「音商標」「位置商標」が加わりました。これら新しいタイプの商標も次々と登録されていますが、なかなか登録されないものもあります。たとえば、色彩のみからなる商標と、歌詞を含まない音のみの音商標(音楽的要素のみからなる音商標)の登録数は、それぞれ一桁に過ぎません。こういった本来的に「識別力」(自分の商品・サービスと他人の商品・サービスを区別する力)が認められにくい商標は、その商標を使用した結果として「識別力」を獲得したことを示す証拠の提出が必要となるなど、登録へのハードルが大変高くなっています。

本稿執筆時点で、色彩のみからなる商標としては「UCC ミルクコーヒー」の茶、白、赤の3色(商標登録第6201646号)が、歌詞を含まない音のみの音商標としては「20世紀フォックス映画」のオープニング曲(商標登録第6161697号)が最新の登録例となります。(弁理士 稲穂健市)



(商標登録第6161697号)